

研究会報告

2012年2月18日（土） 定例研究会報告

テーマ： 「東京都のアジアヘッドクォーター特区構想」

報告者： 七戸 淳（東京都港区議会議員）

時 間： 14：00－17：00

場 所： 専修大学神田校舎 13A 会議室

参加者数：12名

報告内容概略：

今回の研究会では、東京都の国際経済特区構想「アジアヘッドクォーター特区構想」を、当事者として積極的に活動を展開する区議会議員から、当該構想の背景、進展状況、および問題点を報告していただいた。この構想は、欧米の多国籍企業やアジアの成長企業のアジア地域での業務管理および研究開発を統括する拠点を、都内で予定されている「特定都市再生緊急整備地域」や羽田空港跡地などに誘致することを目的としている。特区では、外国企業への税制優遇、出入国審査の緩和、外国人従業員のための生活環境の整備など、他のアジア諸都市（香港、シンガポール、ソウルなど）を意識した誘致およびビジネス支援活動を展開する。

フロアからは、構想への外国企業の反応および優遇税制への日本企業の反応、特区構想で指定される予定地の区議会議員たちとの連携、日本の主要都市における国際経済特区の状況、特区構想に対する港区議会および区長の反応、環太平洋経済連携協定（TPP）と経済特区構想との関係など、多くの質問がなされ、活発な議論が交わされた。

記：専修大学法学部・藤本一美

2012年2月18日（土） 定例研究会報告

テーマ： 建設産業における職階の階層分化

—「一人親方」の収入・就業条件の引き下げに与えた影響—

報告者： 柴田徹平（中央大学大学院経済学研究科博士課程）

司 会： 兵頭淳史（本学経済学部教授）

時 間： 14時～17時30分

場 所： 専修大学サテライトキャンパス・スタジオB

参加者数：15名

報告内容概略：

バブル経済崩壊後、建設投資が急減し建設市場の縮小が急激に進行するなか、かつて獲得すべき地位であった階層的昇進序列における一人親方とは異なる、親方になるキャリアが切断・限定され落層化する「一人親方」化が進んでいる。報告者は、聞き取り調査の結果、こうした「一人親方」の現状を不安定就業階層化の進展と賃労働化傾向の強まりと結論づける。また雇用労働者を雇う企業の経営悪化と就業環境の劣化が進むなかで、賃労働化傾向が強まっても労働者になることが困難な「一人親方」も現出している。こうした実態は、一人親方の「周辺化」と呼ぶべき状況である。

こうした状況は、一人親方を労働者として保護する法制度整備の必要性を示唆するものである。具体的には、公契約条例や労働協約による賃金・単価の最低基準を確立する取り組み、重層下請構造の是正、自営業・零細企業の優先的保護・育成と経営支援などの施策が求められている。

記：専修大学経済学部・兵頭淳史